

令和5年第3回喬木村議会定例会

本会議（一般質問通告書）

令和5年9月14日（木）

令和5年第3回喬木村議会定例会一般質問

令和5年9月14日 午前9時00分開議

会場： 喬木村役場 議場

順序	氏名	質問事項
1	後藤 澄壽	○たかぎ保育園・南保育園について ○算数・数学教育について
2	櫻井 登	○学校現場の「働き方改革」について ○学校現場で改善できる「長時間労働の回避の方策」について
3	木下 温司	○人口減少がもたらす、連鎖的な課題について
4	小川原 美智穂	○三遠南信自動車道周辺の土地利用について ○山の活用について
5	福澤 一成	○協働のむらづくりの推進

令和5年8月28日

一般質問通告書

次の事項について喬木村会議規則第60条第2項の規定により通告します。

喬木村議会議長 後藤章人 殿

喬木村議会議員 後藤澄壽

質問事項 1	たかぎ保育園・南保育園について
質問の趣旨	6月に議会としてたかぎ保育園の視察研修をおこなった。 このときの体験にもとづいて、たかぎ保育園・南保育園の現状と課題について質 したい。
質問要旨と質問	<p>1-1 たかぎ保育園・南保育園の現状について</p> <p>(1) たかぎ保育園・南保育園では、保育のなかに幼児向け英語教育をとりいれるという方針だと聞いていたが、こうしたことも含めて現状の保育は当初の計画通りに進んでいるか。</p> <p>(2) 保育園の送迎バスにおける安全確認、たかぎ保育園・南保育園の園内外での活動、園の行事における安全確認は具体的にどのように行われているか。</p> <p>1-2 たかぎ保育園・南保育園の課題とそれに対する方針について</p> <p>(1) 現在、南保育園たかぎ保育園の保育について、保小連携など、どのような課題があり、それについてどのような方針があるのか。</p> <p>(2) 園庭、人口芝の園庭など施設についてどのような課題があり、それに対してどのような方針があるか。</p> <p>(3) 旧中央保育園の跡地工事も始まり、ますます自動車の交通量の増える通学・通園路について、「通学時間帯一方通行規制」などの対策は考えているか。</p>

質問事項 2	算数・数学教育について
質問の趣旨	算数・数学教育については、学校での授業のほかに、小学校の「土曜塾」、中学校の「未来塾」などで学力補充が行われている。 この算数・数学教育の現状と課題について質したい
質問要旨と質問	<p>2-1 算数・数学教育の現状について</p> <p>(1) 小学校の算数教育の現状について</p> <p>①習熟度別の授業は行われているか。行われといたるとしたらその現状はどのようなものか。</p> <p>②「土曜塾」における算数教育の現状はどのようなものか。</p> <p>(2) 中学校の数学教育について</p> <p>①ICT機材を活用した数学教育の現状はどのようなものか。</p> <p>②「未来塾」など学力補充、「数学検定」対策などの数学教育の現状はどのようになっているか。</p> <p>③「数学検定」の受検者はどのくらいで、合格率はどのくらいか。</p> <p>2-2 算数・数学教育の課題とそれに対する方針について</p> <p>(1) 小学校の算数教育の課題とそれに対する方針について</p> <p>①算数授業の課題はどのようなものであり、それに対する方針はどのようなものか。</p> <p>②「土曜塾」における算数教育の課題はどのようなものであり、それに対する方針はどのようなものか。</p> <p>(2) 中学校の算数教育の課題とそれに対する方針について</p> <p>① 数学の授業についての課題はどのようなものがあり、それについての方針はどのようなものか。</p> <p>②「未来塾」などの数学の補習についてはどのような課題があり、それに対する方針はどのようなものか。</p>

令和 5 年 8 月 31 日

一 般 質 問 通 告 書

次の事項について喬木村会議規則第 60 条第 2 項の規定により通告します。

喬木村議会議長 後藤 章人 殿

喬木村議会議員 櫻井 登

<p>質 問 事 項 1</p>	<p>学校現場の「働き方改革」について</p>
<p>質 問 の 趣 旨</p>	<p>教育現場の「働き方改革」が話題となっている。喬木村の小中 3 校の学校現場の現状を伺い「できること、できないこと」を整理し、その方策について伺いたい。</p>
<p>質 問 要 旨 と 質 問</p>	<p>1-1「長時間労働の改善」が大きな課題であると考えている。「長時間労働を含む教員の働き方改革」が問題化もされている。村の小中 3 校の時間管理はどのように行われているか。特に時間外勤務については「残業代」に相当するものとして「教職員給与特別措置法（給特法）」にある「教職調整額」の加給はされているが、「4%」と限定されているために「定額働かせ放題」とも表現されることがある。労働環境の中で「子どもたちのために」と献身的な姿勢で指導しておられる教員の方に、果たしてこのままが適切なのか危惧している。法規制以外に学校現場として「何らかの方策が必要」ではと考えるが、いかがか、お伺いしたい。</p>

	<p>1-2 「教員の職責」とは、教科指導とともに「児童生徒との対応」や「保護者との対応」等、まさに学校現場における両輪だと思う。いずれも重要な職務と考えている。しかも、様々な異なる事案に対応しなければならず、「多くの時間を要する」ということを聞いている。そうした事情から「一人の教員に負担を掛けない」ためにも「時間の有効性」のためにも「学校としての取り組み」についてお訊きしたい。</p> <p>1-3 最近、「部活動」について「地域移行」という動きがある。都会とは異なり指導者の人材が限られている地方では、複数校で対応するという観点も聞かれる中で、まずは「部活動の改革」が優先ではないかと思うが、現実として、スポーツ庁や県教委は「部活動の地域移行」を進めているところである。そこで「地域移行の現状と課題」について、特に「働き方改革」につながることや「期待」されることについて、見解をお訊きしたい。</p>
<p>質 問 事 項 2</p>	<p>学校現場で改善できる「長時間労働の回避の方策」について</p>
<p>質 問 の 趣 旨</p>	<p>積み重なる施策を見直し、工夫もすれば現状は変えられる。</p>
<p>質 問 要 旨 と 質 問</p>	<p>2-1 「長時間労働」は「部活動」ばかりではなく、新しいことの取り組みが増えても、古いことはなかなか減らないようである。次から次へと新しい施策が増えている。やることの負担が増えるばかりでは「時間縮減」はできないと思う。</p> <p>教員の負担軽減も視野に入れた「学校の在り方の見直しや工夫」について「働き方改革につながる方策」をお訊きしたい。</p>

令和 5 年 9 月 1 日

一 般 質 問 通 告 書

次の事項について喬木村会議規則第 60 条第 2 項の規定により通告します。

喬木村議会議長 後藤 章人 殿

喬木村議会議員 木下 温司

<p>質 問 事 項 1</p>	<p>人口減少がもたらす、連鎖的な課題について</p>
<p>質 問 の 趣 旨</p>	<p>高齢化や人口減少などにより、新たに発生する地域の課題と事業執行について質問させていただきます。</p>
<p>質問要旨と質問</p>	<p>人口減少や後継者不在から起こる、空家問題、耕作放棄地問題、鳥獣害被害、災害など連鎖的に起こりうる課題解決への糸口を探る。</p> <p>1-1 令和 4 年度重点的な事業の取り組み、これらを生かす今後の取り組みについて。</p> <p>教育環境や生活環境の良さをどのように発信していくのか</p> <p>1-2 増え続ける空家問題、放置すれば様々な問題が発生しますが、早い時期の活用によっては、移住・定住の受け入れ先になります。貸方、借り方への対応について</p> <p>現在の状況と今後の対策について</p> <p>1-3 空家が増えれば同じように耕作放棄地など土地の荒廃が進んでいきます。それにより鳥獣の生息地が広がり新たな被害が発生してきます。対策について。</p> <p>1-4 耕作放棄地の利活用に関しての対策は。</p> <p>1-5 同じように地主不在の森林も手入れが行き届かなくなり、災害発生の要因となります。令和 4 年度事業の執行状況から現状を伺います。</p>

令和 5年 9月 1日

一 般 質 問 通 告 書

次の事項について喬木村会議規則第 60 条第 2 項の規定により通告します。

喬木村議会議長 後藤 章人 様

喬木村議会議員 小川原 美智穂

質 問 事 項 1	三遠南信自動車道周辺の土地利用について
質 問 の 趣 旨	<p>三遠南信自動車道で最大の難所であった青崩峠トンネルが、5月30日に開通したと発表を目にし、三遠南信自動車道全線開通への期待が膨らむ中、三遠南信自動車道を十分に活用するため、村の中長期的な計画はどうなっているのか。</p>
質 問 要 旨 と 質 問	<p>三遠南信自動車道周辺やアクセス道路周辺をどのようにするのが、村にとって一番良いのか。色々考えを巡らせている。</p> <p>三遠南信自動車道関連の令和5年度の当初予算では、飯田市から喬木村間に42億3,700万円、青崩峠道路に30億4,800万円の事業費が計上されており、予算規模からも国の期待も大きい事業と考える。開通時期が定まらないとはいえ、当村にとってもとても期待の大きいビッグチャンスです。</p> <p>そこで、三遠南信自動車道周辺の土地利用について、道の駅の設置を考えれば、村内の利活用できていない農地で農産物を生産して、喬木産の美味しい野菜や果物を来村者へ提供できるし、地域コミュニティの拡大や防災機能の強化にも期待できると考える。</p> <p>1 三遠南信自動車道周辺の土地利用について、村の中長期的な計画の中に、道の駅設置の計画はあるのか。また、今後検討する余地があるのか。更に、道の駅で多くの来村者へ、美味し喬木産の農産物をたくさん提供できるよう、農地を農地として活用できるような施策は考えておられるのか。</p>

	<p>7月15日に、地権者説明会が行われ、8月3日の全員協議会でご報告いただきました胡桃沢 建設発生土 受入地の用地取得については、3月定例会で議案提出の予定と伺いましたので、承知しているところでございます。</p> <p>5年前の残土処分に関する説明会の折には、村内での最大約50万立方メートルの発生土を埋め立てる胡桃沢残土処分場は当初3万m³と報道され、地元区長さんも「処分場をいかに地域のために有効活用できるか考えて行きたい」と話されておりました。</p> <p>そこで、地元の意向もあると思いますが、お伺いいたします。</p> <p>2 胡桃沢建設発生土受入地の後利用について、村としてどのようなお考えでいらっしゃるのか。</p>
--	---

質問事項 2	山の活用について
質問の趣旨	<p>村内にある山を、低山登山用に整備したなら、親子や初心者でも登れる。国で推進しているアドベンチャーツーリズムとして活用ができるのではないかと考えるが、山を整備して活用することについて、どのように考えているのか。</p>
質問要旨と質問	<p>矢筈から登る喬木山、上平から登る毛無山、林道から登る旭山、桃添から登る高関山、他にも、氏乗から登る山頂に鬼ヶ城本殿がある鬼ヶ城山、伊那山地第2位の氏乗山経由で行ける伊那山地最高峰の鬼面山は、豊丘村が展望やぐらを設置しており、伊那谷の河岸段丘の絶景が眺められると言う、上久堅から登る二本松山の山頂は、喬木村だと言う。</p> <p>このような村内にある低山を整備したなら、村内外、広くは国内外の方に、手軽に山を体験して貰える。村内の低山も地域の魅力ある自然の一つだと考える。</p> <p>1 村内にある低山を、今流行の低山登山や里山ハイキングができるように整備する考えはあるか。</p>

令和 5 年 9 月 1 日

一 般 質 問 通 告 書

次の事項について喬木村会議規則第 60 条第 2 項の規定により通告します。

喬木村議会議長 後藤 章人 殿

喬木村議会議員 福澤 一成

質 問 事 項 1	協働のむらづくりの推進
質 問 の 趣 旨	喬木村の魅力と課題の共有について
質 問 要 旨 と 質 問	<p>1-1 村の魅力や課題の共有について</p> <p>本年 3 月の定例会、村長挨拶の中で、令和 5 年度の重点項目の中で「関係人口の創出と住民活動の再興」とあります。</p> <p>住民活動の再興については、リニア、三遠南信の開通により人流、物流、交流の環境が劇的に改善される状況の中で、協働のむらづくりの推進を目的に「むらづくり村民意見交換会（仮称）」、現在取り組まれている「喬木村むらづくりワークショップ」であるとお聞きいたしました。今後も大切にして頂きたいと思います。</p> <p>さて、2 か月ほど前、私と同年代の女性の方が、その方のグループの皆さんと「村に長年住んでいるけど、まだまだ知らないことや素敵な場所を知りたい」と皆で一緒に村内巡りが出来ないか計画をしてみました。実現は出来ないままだそうです。村のことをもっと知りたい人たちは他にも多いのにと残念そうでした。私もまだまだ勉強不足で機会があれば村のいろいろな場所の歴史や文化に触れてみたいと思っております。</p> <p>そこでお伺いをいたします。</p> <p>村内をもっと理解したい方や女性の皆さんをはじめ多くの村民の方が、気軽に喬木村のいろいろな魅力や課題などの共有の為の機会を増やしていく必要あると考えますが、村のお考えをお聞きいたします。</p>

1-2 村政 150 周年事業について

以前から村長がおしゃっている村政 150 周年をいよいよ迎えることとなりました。今日まで喬木村を築き上げてこられた先人の努力に深く感謝をいたします。

本年 3 月のたかぎ保育園開園イベントや各地区の春のお祭り、本定例会村長挨拶でも夏祭りそして“美し郷” 喬木まつりは多くの関係者の皆様のご協力により笑顔が広がり、多くの方に喜んでいただいたとありましたが、私もみんなで何かを成し遂げる喜びや人との繋がり大切さを改めて感じる事が出来ました。こうした日々が長く続いてほしいと思ったのは、多くの皆さんも同じではないかと思えます。こうした中で記念事業を迎えることは大変喜ばしいことで、全村民で取り組みが出来ればと考えます。

しかしながら、150 周年を迎える喬木村を取り巻く状況は人口減少、少子高齢化、担い手不足と課題も多く、特に人口減少では喬木村をはじめ、全国でも昨年は年間 80 万人に満たない出生数となり、減少が加速するのではないかと心配をしております、喬木村総合計画、重点プロジェクト関係人口拡大が歯止め、減少を緩やかする政策の一つとして更に期待されるところです。

そして、150 周年記念事業は関係人口創出の大きな機会であることは間違えありません。こうした機会を捉え住み続けられる喬木村であるよう取り組みが必要と思えます。

記念事業では、今日まで努力を続けていただいた村政発足以来、各世代の皆様への感謝の気持ちを全村民で表し、同時に未来を託す世代の為に何が出来るか、何を残せるかに期待いたします。

この記念事業が次の世代にとっても変わりゆく未来とその先に期待と希望があふれる、素敵で喬木村に繋がっていくように望みますが、村のお考えをお聞きいたします。